

# 換え問題への 取り組みを

グリーンコープは、遺伝子組み換え（以下、GM）食品に関して、人や環境に与える影響を危惧し、「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」と共に反対運動に取り組んでいます。

2011年4月18日には、「GM綿の栽培中止を求める署名」を宮崎大学に、「GM作物栽培規制条例制定を求める署名」を宮崎県に届けました。

また、2010年10月に開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）／カルタヘナ議定書第5回締約国会議（MOP5）に向けて、2009年5月、「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」（MOP5市民ネット）を全国の同じ考えを持つ団体等と設立し、積極的に活動してきました。2011年6月11日、名古屋にて「MOP5市民ネット」の解散総会と「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」（食農市民ネット）の設立総会が開催されました。総会には約60人（グリーンコープからは、組合員他12人）が参加しました。

MOP5市民ネット解散総会では、GM生物が引き起こす被害や損害などへの責任と修復を定めた「名古屋・クアラルンプール補足議定書」が採択されるなど、成果をあげることができたことを評価。しかし、「名古屋・クアラルンプール補足議定書」は、各国の国内法の制定に委ねられている。今後は国内法の改正や整備をするために、GM生物による被害を明らかにし、政府に政策の見直しを求めていく必要がある。そのために継続組織を設立することを採択し、解散総会は終了した。

同日午後、「食農市民ネット」の設立総会が開催され、設立趣意や活動計画など、全ての議案が満場一致で採択された。

同日午後、「食農市民ネット」の設立総会が開催され、設立趣意や活動計画など、全ての議案が満場一致で採択された。

**第一号議案 設立趣意**  
（二部抜粋）

**目的** MOP5の成果を実現するための市民活動を担う。

① GM作物の自生や交雑・混入をなくす。

② GM生物への規制を強化させる。

③ 有機農業・環境保全型農業を推進する。

**活動**

① 生物多様性条約、カルタヘナ議定書および名古屋・クアラルンプール補足議定書に対応した国内法の改正・整備に向け

**次のステップへすすむ**

**MOP5市民ネットの解散と食農市民ネットの設立**

た活動を行う。

② 政府、国会、自治体へ働きかける。

③ 情報を収集し発信する

④ 国内外の個人・団体との協力の輪を広げる

会場からは、青森県の養鶏生産者から次のような意見が出された。「今回の東日本震災で飼料工場が被災し、non-GMOの飼料が1カ月間途絶えてしまった。その間、自分の所では備蓄していた飼料米を与えることで急場をしのぐことができた。しかし、GM飼料を使わざるを得ない状況は簡単に生まれる。飼料を含め食の自給率を高めるなど、この運動をもっと強めていかなければと思う」。生産者の切実な思いに会場からは拍手が沸いた。

また、共同代表・運営委員の紹介では、それぞれから抱負が述べられた。運営委員の一人であるグリーンコープ共同代表理事白木豊彦さんは「グリーンコープでは日本の農畜産産業を応援し、自給率を高める運動に取り組んでいる。GM問題にも、より積極的に取り組むたい」と挨拶。最後に、設立総会アピールが採択され、参加者は今後の取り組みの重要性を改めて確認した。

※天笠啓祐さん（遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン）  
河田昌東さん（遺伝子組み換え食品を考える中部の会）

## 宮崎大学でのGM綿実験栽培に対し 中止を求める多くの声を届けました

全国から集まった署名

宮崎大学では、ドイツのバイエル・クロップサイエンス社との共同研究として、GM綿の実験栽培が行われている。2010年8月にはじまった実験は2012年5月まで続けられる予定だ。実験栽培の圃場は大学構内の一番奥にあり、バイエル社が開発した除草剤耐性と殺虫性の二つの性質を持つGM綿が栽培されている。

カスと同じアオイ科の植物であり、周辺の農作物と交雑する可能性も否定できない。しかし、これまでに2度開かれた大学周辺住民への説明会は、開催されることとが周知徹底されないうまま行われており、住民の理解を十分得ているとは言い難い状況である。

住民説明会の開催と実験栽培の中止を

まず宮崎大学では、応じた中山副学長へ、グリーンコープ生協みやざき理事長の永野清美さんが「2012年までこのまま続けて大丈夫だろうか」と心配している。一刻も早く実験栽培を中止してほしい」と訴え、延期されたままになっていく。2010年12月よりこのGM綿の実験栽培の中止を求める署名運動に取り組んだ。2011年3月末までに他団体から届けられたものを含め、170万人近くの署名が集まった。

日本有数の農畜産物の生産県である宮崎県でのGM綿の実験栽培に対して、全国から多くの心配の声が寄せられる結果となった。

4月18日、グリーンコープ生協みやざきと綾町のグリーンコープの産直生産者で構成する「ストップGM宮崎連絡会」は遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンと共に、全国から集まった署名を提出するために宮崎大学と宮崎県庁を訪問した。

次は訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。

**GM作物の栽培規制条例の制定を求めて**

宮崎県は、これからの実験栽培を注意深く見守り活動していく。

宮崎県あて		宮崎大学あて	
個人署名	73,050筆	個人署名	71,964筆
団体署名	962団体	団体署名	975団体
	1,615,483人		1,662,813人

2011年4月18日提出



グリーンコープ生協みやざき理事長の永野さん（写真左）は宮崎県農政水産部の緒方次長（写真右）に署名を手渡した



宮崎大学へ署名提出に向かうストップGM宮崎連絡会と遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンのメンバー

安全性に疑問の多いGM作物に対して、拘束力を持つ条例を制定することで栽培を規制してほしい」と要請した。さらに産直野菜生産者グループ綾菜会会長の小田道夫さんも「綾町は綾町自然生態系農業の推進に関する条例でGM作物の栽培を行わないと宣言している。県としても栽培を規制する条例を制定してほしい」と重ねた。県農政水産部の緒方次長は「食の安全安心は、今一番大事なことでと認識している。170万人の署名の重みは受け止めた」としながらも、条例の制定については即答を控えた。

綿は、現在日本ではほとんど栽培されていない。それにもかかわらずバイエルのGM綿がなぜ宮崎大学で実験栽培されるのか、未だその理由は明らかにされていない。今後、宮崎大学での実験栽培が綿だけでなく他の作物まで広がれば、周辺の農作物への交雑がさらに危ぶまれる。農畜産業が盛んな宮崎県だからこそ、その影響は計り知れない。

ストップGM宮崎連絡会では、これからも実験栽培を注意深く見守り活動していく。

※宮崎大学でのGM綿栽培実験に反対する活動のため、2010年10月に設立。2008年に綾町で開催されたGMフリーゾーン全国集会の実行委員会を母体に、綾町、JA綾町、グリーンコープ産直生産者の綾菜会、綾菜会とグリーンコープ生協みやざきで構成されている。GM作物の栽培をしない、させないことをめざして活動しており、2010年11月30日に宮崎市にてGM作物に関する講演会を開催した